

19	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14104023	膜タンパク質の細胞内選別輸送の分子機構	中野 明彦(東京大学・大学院理学系研究科・教授)	A
(意見等) 当該研究は“膜タンパク質の細胞内選別輸送の分子機構”と題して、membrane traffic—小胞輸送で結ばれる動的膜の流れの中で、ある膜たんぱく質の局在性を“徹底的に分子の言葉で解明する”ことを目的とし、この研究目的にある“徹底的”という姿勢が十分今回の平成 1 6 年度科学研究費補助金(基盤研究(S)) 研究状況報告書に反映している。具体的には、ゴルジ体膜タンパク質 Rer1p、レクチン様膜タンパク質は Emp46/47p、トリプトファン輸送体 Tat2p に関する研究において、膜タンパク質の局在を科学的に解明し高い成果が得られている。膜タンパク質選別過程のリアルタイム可視化、積荷選別の完全再構成系の構築、ゴルジ体の槽成熟モデルの証明など研究内容は独創的・先進的である。全体として良好なペースで進行しており、研究成果の達成度も高く、また国際的にも評価される高い質の研究が進行している。				
20	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14104024	初期中胚葉の組織化と分節化の分子基盤	相賀 裕美子(国立遺伝学研究所・系統生物研究センター・教授)	A
(意見等) これまでの研究経過は、おおむね順調であり、質の高い論文を発表している。特に、テーマ 1 の中で、Mesp1 で標識されない細胞群の存在と、それが刺激伝達形を形成するという発見は、特筆できると思われる。テーマ 2 についても、時間がかかるテーマにもかかわらず積極的に取り組んでおり、これまでの実験の進捗状況からいって、今後の成果が大いに期待できると思われる。				